

## 組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 大学院環境学研究所、廃棄物マネジメント研究センター

|                       | 組織目標  | 達成状況(成果)   |                         |   |
|-----------------------|---|--|-------------------------|---|
| 教<br>育                | <p>①大学院教育改革支援プログラムの取り組みにあわせて、アカデミックカウニング等を中心として、GPA制度や電子カルテ(大学院生教育指導カード)の活用方法を協議し、実施する。</p> <p>②大学院の教育体制強化に向けた専攻・講座組織の変更等の改善計画を作成し、実施する。</p> <p>③フエ大学院特別コースの教育実施体制について見直しと、充実・強化を図る。</p> <p>④大学院教育改革支援プログラムによる国際連携や新しい教育プログラムの整備を通じて、「学都岡山大学」にふさわしい環境学の大学院教育システムを構築する。</p>  | <p>①シラバス改善、厳格な成績評価、ピアレビュー、アカデミックカウニング等の大学院教育改革を継続した。また、GPAを奨学金や研究科長賞の選考において利用するとともに、電子カルテを博士後期課程全員と前期課程の大学院GP関連学生(アジア環境再生特別コース履修生)に導入した。</p> <p>②岡山大学中期計画に示された異分野融合の推進に資するため、「医用数理科学」の構築を主目的の一つとする研究科改組計画を決定し、教育研究評議会の承認を経て、平成22年度から実施することとなった。</p> <p>③フエ大学院特別コースの教育体制を強化するため、4期生から適用するカリキュラム改正を決定するとともに、必要な規程改正等を実施した。また、第1期生8名が岡山大学に編入し、全員が博士前期課程を修了し、第1期生に対する教育を予定通り終了した。</p> <p>④平成20年度に採択された大学院GPIに基づいて「アジア環境再生特別コース」を新設し、博士前期課程学生13名と後期課程学生2名を受け入れ、循環型社会形成学と持続発展教育(ESD)を融合させたカリキュラムを実施した。また、HESD国際フォーラム、環境科学技術シンポジウム2010、第2回アジア環境再生コキアム等の国際会議を主催し、環境学及び持続発展教育(ESD)分野における国際拠点機能を強化した。</p>                        |                         |   |
|                       | 達成度： ④ 3 2 1  |  |                         |   |
| 研<br>究                | <p>①廃棄物マネジメント研究センターを中心として、21世紀COEプログラムの成果を集積するとともに、廃棄物学に関する先端研究の継続と国際交流の促進を通じて研究教育拠点の強化を図る。</p> <p>②環境科学技術シンポジウム開催や英文ジャーナル(Journal of Environmental Science for Sustainable Society)発行を継続するとともに、大学院教育改革支援プログラムを活用した博士後期課程学生の研究支援体制を構築する。</p> <p>③引き続き岡山大学ユネスコチェアを中心として、持続発展教育(ESD)に関する国際拠点形成を行うとともに、開発途上国の環境保全に関する国際連携を展開する。</p> <p>④循環型社会形成と持続発展教育(ESD)を中心テーマとして、「学都・岡山大学」にふさわしい環境学の研究拠点形成を図る。</p> | <p>①岡山大学ユネスコチェアや大学院GPの事業と連携しながら、アジア・太平洋地域における廃棄物マネジメント研究や専門家養成を実施した。また、平成22年度概算要求において、「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的研究教育」が採択され、新たな拠点形成事業を開始することとなった。</p> <p>②平成22年2月に、第5回環境科学技術シンポジウムを海外参加者21名を含む国際会議として実施し、博士後期課程学生10名が英語による研究報告を行った。英文ジャーナルJESSIについては、発行を継続している。また、研究科に学術研究委員会を設置し、博士後期課程学生の研究支援体制を構築した。</p> <p>③岡山大学ユネスコチェア及び大学院GPによる事業として、HESD国際フォーラム、ESD国際シンポジウム等を開催するとともに、ユネスコ本部、国連大学等が主催するESD専門家会議に岡山大学ユネスコチェア関係者が招聘された。また、中国、インドネシア、バングラデシュ、ベトナム、グアム、パラオ等において、現地政府、大学、NGO等と協力して、環境保全や保健衛生に関する国際協力事業を実施した。</p> <p>④上記の①～③に加えて、岡山地域の行政機関、大学、小中高校、NGO、NPO等と協働して、循環型社会形成及び持続発展教育に関する研究拠点形成を継続している。</p> |                         |   |
|                       | 達成度： ④ 3 2 1  |  |                         |   |
| 社<br>会<br>貢<br>献      | <p>①岡山大学ユネスコチェア、廃棄物マネジメント研究センター等の拠点組織を活用しながら、環境分野における国際的視野をふまえた社会貢献活動を促進する。</p> <p>②地域の行政、企業、NPO、NGO、市民団体等の機関と協力し、持続可能な地域社会の形成に向けた社会貢献活動を促進する。</p>  | <p>①国連大学からESD拠点地域(RCE)に指定されているRCE岡山の関係機関と協力してHESD国際フォーラム、ESD国際シンポジウム等を開催し、途上国の環境専門家や行政関係者を招聘して、持続可能社会に向けた環境政策や教育政策の課題を討議した。また、廃棄物マネジメント研究センターでは、グアム、パラオ、ベトナム、マレーシア、インドネシア等のアジア・太平洋諸国において、廃棄物マネジメント分野の国際協力事業を展開している。</p> <p>②岡山大学ユネスコチェアは、ESD拠点地域(RCE)であるRCE岡山の主要構成機関の一つであり、地域の行政機関、企業、NPO、NGO、市民団体等との協働により、ESDを通じた持続可能な地域形成に取り組んでいる。この取り組みは、学会でも高く評価され、環境学研究所長が推薦者・岡山市が申請代表者となり、平成22年度日本計画行政学会計画賞(優秀賞)を受賞した。また、廃棄物マネジメント研究センターは、岡山市エコ技術研究会等の地域機関と共同して、産官学連携の下で、廃棄物マネジメント分野における社会貢献活動を推進している。</p>   |                         |   |
|                       | 達成度： ④ 3 2 1  |  |                         |   |
| 客<br>観<br>的<br>指<br>標 | 事 項   | 前 年  | 今年の目標                   | 達成状況                                      |
|                       | 学部入試倍率  | /  | /                       | /   |
|                       | 大学院充足率  | 修士 86.8% 博士 100%   | 充足率100%を目標とする。          | 修士 105.7%<br>博士 72.7%                     |
|                       | 科研費申請率  | 申請率102.9%(継続を含む)   | 申請率(継続を含む)について100%を目指す。 | 114.7%(継続を含む。)                            |
|                       | 科研費採択率  | 14/56=25%  | 前年度採択率を維持する。            | 14/68=20.6%                               |
|                       | 共同研究件数  | 環境30, 農学 1   | 前年度件数を維持する。             | 環境25, 農学1                                 |
|                       | 受託研究件数  | 環境20, 農学 6   | 前年度件数を上回る。              | 環境18, 農学10                                |
|                       | 留年・休学・退学者数  | M留年4, 休学5, 退学2<br>D留年4, 休学6, 退学5   | (今年の状況)                 | 修士 博士<br>留年13名 2名<br>休学18名 2名<br>退学 5名 4名 |
| 就職率                   | /   | 前年度の就職率を維持する。  | /                       |   |

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

平成21年度は、岡山大学ユネスコチェア、大学院GP等のプロジェクト推進を通じて、教育、研究、社会貢献の各面において、平成21年度組織目標に対する十分な成果を上げることができたと判断する。ただし、客観的指標については、博士後期課程の学生充足率、外部資金獲得等が目標を下回る結果となっている。この理由として、ここ数年は退職教員が続き、教員の入れ替えが多かったことが上げられる。平成22年度は、研究科の改組も完了したので、新たな組織の下で、博士後期課程学生定員の充足率向上や教員個人レベルでの外部資金獲得増に向けて、鋭意取り組んでいきたい。また、平成22年度は、概算要求で採択された廃棄物マネジメント研究センターのプロジェクト経費事業を通じて、環境科学分野やESDにおけるアジア・太平洋地域の大学・研究機関、行政機関との連携を一層強化し、「学都・岡山大学」にふさわしい教育・研究拠点形成を目指していきたい。